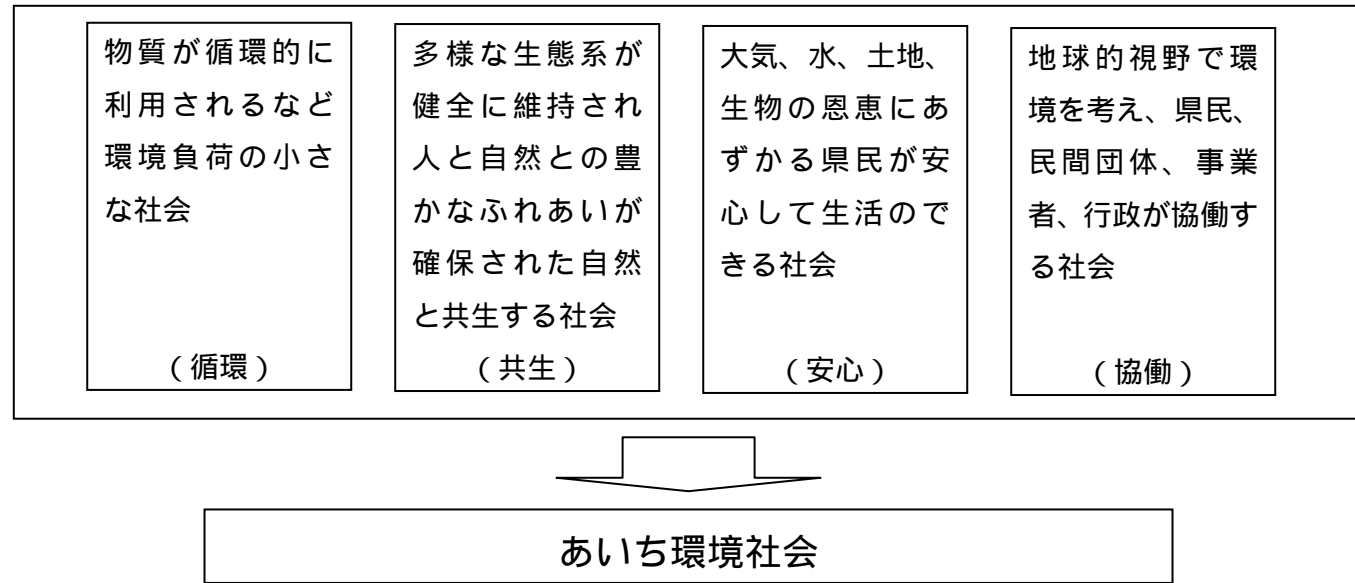


# 第3章 計画の目標について

## 1 現在の計画の目標（めざす社会と環境の姿）

「循環」「共生」「安心」「協働」の四つのキーワードで表される次のような社会を形成することにより、「自然界における物質の適正な循環が確保・維持され、自然生態系が健全に保持された恵み豊かな環境の愛知」（あいち環境社会）を形成し未来に引き継ぐこと。



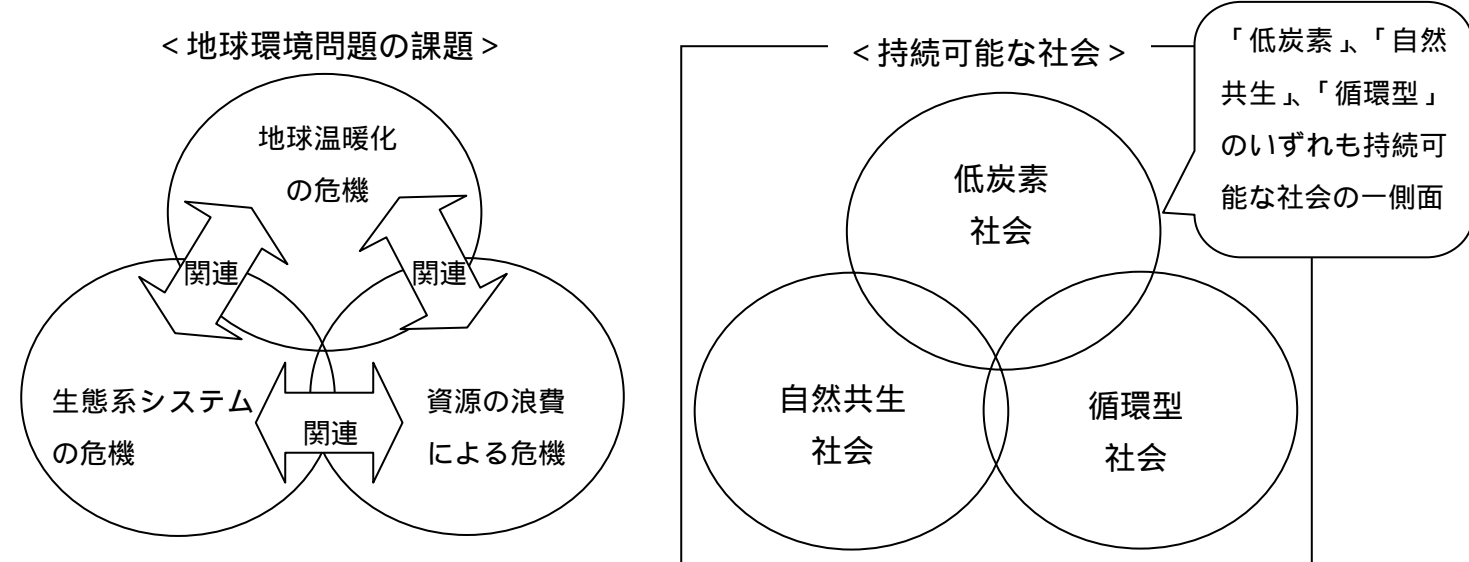
## 2 地球環境問題に関する状況

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書第1作業部会報告書

- 地球温暖化は人為起源の温室効果ガスが増えたことが原因であることをほぼ断定。
- 化石エネルギー源を重視する場合においては、今世紀末に、世界の平均気温は約4.0（2.4～6.4）上昇する可能性を指摘。

中央環境審議会21世紀環境立国戦略特別部会での論点整理

- 地球環境問題の課題として、「地球温暖化の危機」、「生態系システムの危機」、「資源の浪費による危機」の三つを大きな課題と提示。それらは相互に関連しあうとの指摘。
- 「持続可能な社会に向けた取組」として、三つの危機に応じて「低炭素社会」、「自然共生社会」、「循環型社会」が追求されるが、それらは持続可能な社会の一側面であり、統合的取組が不可欠であると指摘。



## 3 新しい計画の目標

原則的には、現在の計画の目標を踏襲するが、以下の点を踏まえる必要がある。

- IPCCの報告、中央環境審議会21世紀環境立国戦略特別部会での論点整理も踏まえ、地球温暖化対策が喫緊の重要課題であり、新しい計画において、強いメッセージとして打ち出す必要があること。
- 中央環境審議会21世紀環境立国戦略特別部会における「低炭素社会」、「自然共生社会」、「循環型社会」はいずれも持続可能な社会の一側面であり、統合的取組が不可欠であるとの指摘があること。

具体的には、以下のとおりとする。

- 目指す社会のひとつに「低炭素」を加える。
- 「低炭素」、「循環」、「共生」については、相互の関連性を示す。
- 「安心」、「協働」は、持続可能な社会の基盤となる地域の取組であることを示す。

### 【新しい計画の目標（めざす社会と環境の姿）】

<環境基本計画がめざす五つの社会の姿>

- 低炭素：気候に悪影響を及ぼさない水準に温室効果ガスを削減、安定化させる社会
- 循環：物質が循環的に利用されるなど環境負荷の小さな社会
- 共生：多様な生態系が健全に維持され人と自然との豊かなふれあいが確保された自然と共生する社会
- 安心：大気、水、土地、生物の恩恵にあずかる県民が安心して生活のできる社会
- 協働：地球的視野で環境を考え、県民、民間団体、事業者、行政が協働する社会

